

# クリエイティブスキルを活かす！ —インハウスクリエイターの業務の紹介—

○藤崎 聡美

岩手大学技術部 理工学系技術部

## 1. はじめに

本報告者は近年、岩手大学内において複数のインハウスクリエイターの業務を担っている。当初はイベントポスター等の依頼が多かったが、その後、グラフィカルスキルを用いた申請書や論文向け挿絵の制作依頼も受けるようになった。一方、イベントポスター制作の際に自身で撮影した写真を素材化して活用することもあり、また、セミナー等イベント記録としての撮影依頼も増えたことから、自ずと撮影や写真編集に携わる機会が増えた。併せて、コロナ禍はオンライン・オンデマンド対応として映像撮影・配信などの相談を受けるようになり、こういった面から映像編集といったスキルも身に着くに至った。従って、本発表では本報告者が行っているインハウスクリエイターの業務についてカテゴリー別に紹介する。

## 2. インハウスクリエイターの業務

### 2.1 インハウスクリエイターとは

近年、インハウスクリエイターやインハウスデザイナーという言葉がメジャー化してきた。Adobeによると「デザイン会社やフリーランスではなく、一般的な事業会社に勤めながら、社内でデザイン業務を行う担当者」のことをさす<sup>1)</sup>。本報告者がこういった業務を本格的に担うようになったのは2014年頃からとなる。

### 2.2 ポスター制作編

インハウスクリエイターの業務で長く依頼を受けているのは、セミナー等の案内ポスター制作である。依頼の方向性は大きく2つに分かれる。1つはセミナーの企画から運営までの一連にポスター制作も入るパターン、もう1つはデザイン提供がメインのパターンである。前者の場合は、テーマや講演者・演題なども決まってからデザインに取り掛かり、出来上がったデザインデータはHPでの周知がメインとなる。一方、後者の場合は、デザイン完成後に

データ支給形式で印刷業者への発注までを担当する。また、他者制作のデザインデータを引き継ぎ、年度ごとにカラーを変調させ、継続提案しているケースもある。

### 2.3 URA 支援編

ここ数年増えているのが、申請書や論文への挿絵提供といった、いわゆる URA 支援業務である。手書きのイメージを図化することあれば、スライドのブラッシュアップもある。また、申請書への挿絵提供の際は時間的猶予が短い場合も多い。URA 支援業務の特徴として、アイデアや成果の守秘的観点や、リターンまでの時間的猶予の短さなどから外注をしづらい潜在的課題があるため、こういった業務こそインハウスクリエイターの存在を発揮しやすい場面であると考えられる。また、ニーズに対しオーバーラップする専門知識を有する技術職員がクリエイティブスキルを培った場合、その能力を発揮しやすいようにも思う。

### 2.4 写真・映像・配信編

ポスター制作の際に素材として活用する目的で写真撮影を本格化し、加えてイベント時の記録撮影にも着手を始めたところ、学内各所から声がかかるようになった。印刷媒体への写真提供要請も増えたため、対応を考慮し、基本的に Raw で撮影した後に加工して提供する手法を取り入れた。結果、編集スキルは格段にアップした。

コロナの影響で教育・研究の動きが取りづらくなっていた2020年頃からは、オンライン・オンデマンドなどへの要請が増加した。それまでイベント等を撮影する機会が多かったことや、技術職員ならば！との理由で配信や映像編集の相談を多く受けたため、学内の技術職員でチームを組み、一早く対応をとった。学生実験教材の動画などは技術職員のモデルをたて撮影・編集を行った。また、必要機材をそろえてセミナーや講演会などのイベント配信も多く対応した。こういった場面で培ったスキルは、現地出

展が叶わなかった展示会用映像などでも存分に活かすことができ、インサート素材作成から撮影・編集・テロップ・BGMを含む、立派なPVの提供を行うことも出来たと振り返る。

### 3. まとめ

本発表では、本報告者が行っているインハウスクリエイターの業務の紹介を行った。この業務を10年以上行ってみて、あくまで個人的な意見ではあるが、技術職員の素質に合っている取り組みという印象を受ける。理由として「部局異動が少なく、必要な知識やスキルを深めていきやすい立場」であることが挙げられる。また、間接的な研究支援方法の一つともいえるほか、大学自体の運営に少なからず関わっているという認識にもつながりやすい。併せて、インハウスクリエイターの業務を行うことで自ずとデザイン思考を獲得できるメリットもある。デザイン思考<sup>4)</sup>とは、近年注目が集まっている手法の一つで、サービスを受ける側に潜む課題を見つけ解決に導く思考のことをいう。技術職員がデザイン思考を会得できると、教育支援・研究支援のみならず、組織運営や自身のスキルアップについても、どこに課題がありどう解決することを望まれているかの判断力向上が期待できると考える。

現在、こういったクリエイト業務に関わっている技術職員はそれほど多くはないと思うが、情報を発信・共有するなどして、今後も自身のスキルを深め、大学の活性化や発展に貢献したい。

### 参考文献

- [1] インハウスデザイナーの例  
<https://www.adobe.com/jp/creativecloud/business/teams/discover/inhouse-designer.html>
- [2] Iwate Collider School  
<https://ics.sgk.iwate-u.ac.jp/>
- [3] デザイン思考の例  
<https://www.fujitsu.com/jp/about/businesspolicy/tech/design/activities/designbook/>